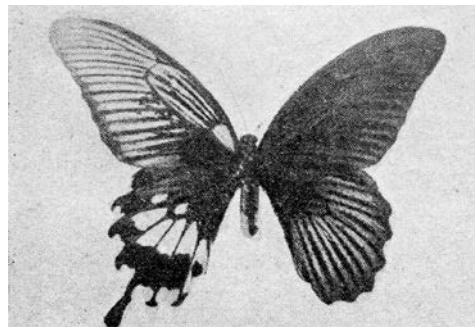


ナガサキアゲハは地球温暖化のせいで次第に北へと分布を広げている南国系のチョウで、現在神奈川県でも多数の記録があり、福井では定着しているようです。幼虫は消毒さえされていなければミカン科をほとんど選り好みなく食って育ち、蛹で越冬します。松波町や西畑でも最近をよくみかけますが、英語で **Swallow-tail** と称される後翅の尾状突起がないので他のアゲハチョウ類とは簡単に区別できます。台湾には尾状突起のある有尾型が普通で遺伝的にも有尾型が優性だと分かっていますが、日本ではわずかに記録があるだけで無尾型が主流です。ナガサキアゲハでは♀♂の特徴が左右に分かれて同一個体となる珍しい雌雄モザイクタイプが出ることがあります。



③ ナガサキアゲハの雌雄型 左前後翅基部に近いところに、かすかながらるの性徴がモザイクに入っている。生殖器は、♂♀各々区別してあるが、正常よりやや小型である

♂は羽化したばかりだと沖縄産標本にみられるように翅表にうっすらと青藍色の鱗粉がちりばめられ、特に後翅裏面はきれいですが、通常、黒一色にみ



えるそっけなさです。♀は後翅に白条紋があり、春から夏にかけて気温があがるにつれてその数が増え、飛翔しているときにこの白条紋が多ければ多いほどすばらしく優雅でうっとりともとれてしまいます。沖縄では前翅にも白色部が広がって(白化)、その飛翔時の美しさは文字では表現しつくせません。かつて著しく白化した美麗♀が西表島で観察されていますが、現在、その系統は絶滅したと考えられ、南国系チョウと

いわれるのに八重山諸島では迷チョウで、定着はしていないようです。

私の郷里高知市では、食樹となるウチムラサキというミカンの木の周りを産卵目的でゆつたりと舞う♀の飛翔をみるのがとても楽しみでした。白化度の高い♀が多い沖縄で見られる光景には



とても及びませんが、それでもじゅうぶん優雅です。西畑のテニスコート周りにはよく現れて、周囲の金網フェンス沿いにふわふわと飛んでくれます。2008年夏には松波町にも現れてフワリフワリと風によって飛ぶ姿を目にしました。♀の前翅翅表基部には真っ赤な三角状マークがありますが、添付高知吾北村の標本のように稀に♂の基部にもこの赤紋が

でることがあります。